

ともに生きる

共生

小学校高学年 中学校 高校
社会 公民 学級活動 道徳

探検バクモン  25分

ハンセン病を知っていますか

(2015年放送)

この番組の良さ



病気と差別

現在の日本では、ほとんど患者がいないハンセン病。かつては不治の病とされ、患者は激しい差別を受けました。明治末期からは、強制隔離を定めた法律が1996年まで90年にわたり施行され、患者は国からも社会からも二重に差別される苦しみを味わってきました。

差別の現実に学ぶ

番組では、東京都東村山市の国立ハンセン病療養所「多磨全生園」を訪ねます。園内の「ハンセン病資料館」では、患者をまるで囚人のように押し込めた「雑居部屋」や療養所独自の通貨の存在理由、再現された懲罰施設「重監房」の過酷さに驚かされます。

また、88歳の元患者・平沢保治さんに直撃取材をし、その思いを語ってもらいます。ハンセン病患者の悲劇の歴史の一端を実感するとともに、病気と差別をなくすために自分にできることについて考えることができます。

番組活用のポイント

偏見や差別をなくすために

ハンセン病とは、末梢神経と皮膚に病変を起こす感染症ですが、感染力は非常に弱く既に薬と治療法が確立された完治する病気です。しかし、現在でも誤った知識をもっている人が多く、ハンセン病患者・元患者の方々に対する偏見や差別が解消されていない状況です。ハンセン病患者への差別の実態を克明に伝える本番組を通じて、偏見や差別をなくすためには、一人一人が人権問題に関心をもつこと、正しい知識を身に付けることが大事だということに気づかされます。

「知ったあなたは、次どうするの？」

番組は、多磨全生園の取材を通じて、ハンセン病患者の受けた激しい差別を明らかにしていきます。そして、強制隔離による国からの差別だけでなく、家族や地域からの社会的な差別を受けたことについても語られます。授業では、何が原因で偏見や差別が助長されたのか、そして、このような事実を知って自分がこれからどうするかに焦点を当てて進めることが重要です。グループや全体で互いに自分の意見を出し合い、その中でもう一度自分の考えを見つめ直す場を設定し、これから自分がどのように人権問題と関わっていくかを考えることができるようにすることが大切です。

人権について考える学習を総合単元的に

人権問題について、より理解を深めたいときは、他のティーチャーズ・ライブラリーの番組を活用すると効果的です。「人とつながる 男らしさ、女らしさって何？」(P.42)、「人間は尊敬すべきものだ～全国水平社・差別との闘い～」(2015年度版P.30)などが活用できます。児童・生徒の実態に応じて、人権問題についての学習を総合単元的に実施することで、さらに効果が期待できます。

学習展開例

授業時間 45分



西条市立氷見小学校
教諭 山内雅博

執筆

ここで何があったのか… 知ったあなたに考え続けてほしい

時間配分	学習活動	教師の支援
5分	①ハンセン病について、調べたことや知っていることを話し合う。 ②番組視聴の目的を確認する。 「ハンセン病問題を通じて、自分ができることを考えよう」	○事前に「ハンセン病」について調べ学習をする時間を設定する。 ○提示資料などが必要であれば、コラムを参考にして準備しておく。 ○ハンセン病患者への偏見や差別について知り、自分ができることについて考えることを伝え、番組を視聴する。
25分	③番組を視聴しながら考える。  視聴 ハンセン病療養所での生活やその思いを聴く 自分たちのことを知ってほしいと、生きてきている  ハンセン病問題について語る黒尾所長 無知が偏見を生む	○番組に集中できるよう、メモはとらないよう指示する。 ○平沢さんが自分の思いを語っている言葉を聞いた後一時停止し、故郷で家族と生活したいという願いをもって、そしてそれを阻んでいるのは何かについて、しっかり考えるよう声かけする。 ○「無知が偏見を生む」「知ったあなたは、次どうするの?」という言葉を書き、次の学習活動につなげるようにする。
10分	④番組を見ての感想をもとに、自分ができることについて話し合い、考える。  ハンセン病を知っていますか 目の前にそういう人たちが現れたら どういう言葉をかけてあげますか?	○小グループで、心に残ったことを発表する中で、偏見や差別をなくすために、自分ができることは何かを問う。 ○こんな悲しいことを二度と起こさないために、どんなことができるのか、話し合いの中で伝えていく。 ・無知や無関心が偏見や差別につながっている。 ・まちがった考えをもっていれば、改める。 ・正しい知識を身に付ける。 ・間違ったことを「違うよ」と言える勇気、みんなで支え合える優しさをもつ。
5分	⑤今日の学習の振り返りを書く。	○今日の学習で学んだことをノートなどに書く。時間があれば、振り返りや感想を交流し、友達のいろいろな考え方にふれることができるようにする。

授業内容

コラム

ハンセン病問題について正しく知ろう

ハンセン病問題について授業し、その問題点を児童・生徒に分かりやすく伝えるためには、教師自身が知識を再確認しておくことが大切です。国立ハンセン病資料館のホームページ (<http://www.hansen-dis.jp/kids/index.html>) が分かりやすくまとめられています。また、できれば全国13か所ある国立ハンセン病療養所 (http://www1.mhlw.go.jp/link/link_hosp_12/hosplist/nc.html) を実際に訪問するなどすると、より実感をもって授業することができます。